（参考様式第1-7号） *記載例*
生産記録
有機農業の加算措置の取組（緑肥の作付け（カバークロップ、リビングマルチ、草生栽培）の取組）

生産記録については様式を定めていませんが、参考様式として農業者団体が市町村に実施状況報告を提出するにあたり最低限必要な項目をまとめたものです。

組織名	*環境営農組合*
氏　名	*農林　太郎*

ほ場名	実施面積	作物名	対象活動	
ほ場番号①	*50a*	*水稲*	*カバークロップの取組*	（作物名）*レンゲ*

・「実施時期」欄には年月日だけでなく、〇月上旬などの時期を記載することも可能です。
・作業を実施した時期に幅がある場合は、「〇月〇日～〇日」や「〇月上旬～〇月中旬」と記入してください。
・見込みで報告する場合は目安となる年月日の後に「（見込）」と記入してください。
・「播種量」欄は実際の播種量を、「標準播種量」欄はカタログ等に記載された標準播種量を記入してください。

・複数ほ場について作成する場合は、交付金の交付金額の算定の基となるほ場面積がわかる書類と突き合わせられるように、通し番号等によって整理してください。
・「対象活動」欄は主作物の栽培と組み合わせて行った取組（カバークロップ、リビングマルチ、草生栽培）とその際に播種した作物名について記入してください。
・異なるほ場であっても、作業工程や肥培管理が同じ場合は、一枚の生産記録にまとめて記載できます。

1　緑肥の作付け

作業名	実施時期	播種量（kg/10a）	標準播種量（kg/10a）（注1）	備　考
播　種	*令和〇年〇月上旬*	*4*	*3～4*	
農地還元（すき込み）	*令和〇年〇月下旬（見込）*			
栽培期間（注2）	*約4ヶ月間*			

（注1）標準播種量には、カタログや都道府県の栽培技術指針等で示されている播種量を記載すること（播種量は、標準播種量以上の播種を行う必要）。
（注2）播種から農地還元までの期間を記載すること。

2　保管書類

・「種子のカタログ等」や「種子の購入伝票等」の写しを証拠書類として保管してください。

■ 種子のカタログ等　　■ 種子の購入伝票等
（注）保管してある書類名の□に、■または✔を入れること。